令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【尾間木中学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>基礎的・基本的な知識・技能の習得が十分とはいえない教科がある。 <指導上の課題>習得した知識・技能を活用する学習活動を学級全体で設定しにくい。	⇒	ドリルパークやFormsでの小テスト等を活用し、基礎的な・基本的な知識・技能の反復・習熟に取り組む【教科ごとに定期的に実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題>国語の「話すこと・聞くこと」の内容において、学年間で差ができている。 <指導上の課題>子ども主体の学びとなるような授業や言語活動を通した生徒同士の関わりの場が、教科や学年によって差がある。	⇒	校内研修や教科会での情報交換を通じて、各教科において、個々の課題解決に向けた活動や言語活動を通した生徒同士の関わりの場を多く取り入れる【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】。

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	国語・数学の「知識・技能」における正答率は、昨年度と比較すると同程度かそれ以上であり、概ね良好であった。各教科の授業における基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟の取組みの成果が着実に表れていると考えられる。しかし、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、やや苦手とする傾向が見られた。
思考・判断・表現	国語・数学の「思考・判断・表現 」における正答率は、昨年度と比較して上回っており、概ね良好であった。また、国語の「話すこと・聞くこと」における正答率は、昨年度と比較して大きく上回っていた。各教科において、個々の課題解決にむけた活動や言語活動を通した生徒同士の関わりの場を多く取り入れる取組みの成果が着実に表れていると考えられる。

③ 中間期報告 / 中間期見直し

	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	多くの教科で、定期的に基礎的な・基本的な知識・技能の反復・習熟に取り組むことができていた。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科において、個々の課題解決にむけた活動や言語活動を通した生徒同士の関わりの場を取り入れることができた。	変更なし

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	1年生では、社会、理科においては、市の平均正答率と同程度、国語、数学においては、わずかに下回る結果となった。2年生では、昨年度の同集団との平均正答率を比較すると、国語、社会、数学においては、同程度、理科においては、わずかに下回る結果となった。各教科の授業において、基礎的、基本的な知識・技能の習得を目指し取り組んできたが、十分な定着には至らなかった。
思考・判断・表現	1年生では、社会、数学、理科において市の平均正答率を上回り、良好な結果となった。2年生では、昨年度、同集団との平均正答率を比較すると、国語は同程度、社会、数学、理科においては下回る結果となった。各教科において、個々の課題解決にむけた活動や言語活動を通した生徒同士の協働の場を多く取り入れており、学年や教科によって差があるものの少しずつ力がついてきている。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価(※)	
知識・技能	B	基礎的・基本的な知識・技能の定着に向け、ドリルパークやFormsでの小テストおよび、紙での小テストや振り返りシートなど教科ごとに、デジタルとアナログを実態に応じて併用し、計画的に行うことができた。授業時数の関係で回数の調整が必要となった。
思考・判断・表現	B	R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が95%となり目標を大きく上回った。また、2、3年生においては昨年度、同集団の結果よりも大きく上昇した。

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	学年での差があるものの、全体としては基礎的・基本的な知識・技能の定着を十分には図れなかった。来年度以降も、基礎的・基本的な知識・技能の定着に向け、引き続き取組みを続けていくとともに、教科会等を通し、より効果的な手段を考えていきたい。
思考・判断・表現	主体的・対話的で深い学びに向けて授業改善をさらに推進し、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答を令和6年度同様に、高水準を維持できるよう取り組んでいく。

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【尾間木中学校】

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の国語・数学、及びR5年度市学習状況調査の国語・数学・理科・社会の「知識・技能」において、それぞれ全国平均、市平均を上回る。	⇒	ICTを活用することで、自主的に知識・技能が習得できる課題の設定や、Forms機能を使った小テストの実施など学習の効率化を図る。また、観察、実験を通し、基礎的な知識の確実な定着を図る。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度自校結果より2pt向上させる。またR5年度市学習状況調査の数学の「データの活用」の領域において、市平均を上回る。	⇒	各教科において、個々の課題解決にむけた活動を設定する。また、データを収集、整理、分析し、活用する力が身につけられる授業を実施する。教科会で情報交換を積極的に行い、ICTを活用した効果的・効率的な指導についての研究を学校全体で推進する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」、「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒	各教科の授業において、生徒とともに必要感のある課題を設定し、自力解決する場を設ける。また、課題解決にむけた取組を推進するとともに、単元や授業毎の振り返りでは、ICTを活用した学習の履歴を通して確認する。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	国語・数学・英語の「知識・技能」において、国語・数学が＋4pt、英語が＋12ptと、それぞれ全国平均を上回っており、概ね良好であった。
思考・判断・表現	国語・数学の「思考・判断・表現」において、国語が＋4pt、数学が＋7pt、それぞれR4年度自校結果を上回っており、概ね良好であった。また、数学の「データの活用」の領域においても、全国平均、市平均を上回った。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目においては、肯定的な回答の割合が87%となり、概ね目標を達成できた。また、「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目においては、肯定的な回答の割合が78%であり、目標値には達しなかったものの、全国平均を8pt上回っており、一定の成果は見られた。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	修正なし	⇒	修正なし
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度自校結果より、2pt向上させる。また、R5年度さいたま市学習状況調査の数学の「データの活用」の領域において、市平均を上回る。さらに、R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「話すこと・聞くこと」の内容において、市平均を上回る。	⇒	各教科において、個々の課題解決にむけた活動や言語活動を通した生徒同士の関わりの場を設定する。また、データを収集、整理、分析し、活用する力が身につけられる授業を実施する。さらに、教科会で情報交換を積極的に行い、ICTを活用した効果的・効率的な指導についての研究を学校全体で推進する。
主体的に学習に取り組む態度	修正なし	⇒	修正なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。

中1	「知識・技能」「思考・判断・表現」において、R4年度さいたま市学習状況調査より、上回った教科はなかったが、数学の「データの活用」の領域において、市平均を1pt上回った。さらに、理科の「地球」を柱とする領域と、社会の「世界の様々な地域」の領域においてそれぞれ2pt上回った。生活習慣に関する調査の「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問内容において、肯定的な回答の割合が、市の平均を大きく下回っており、家庭学習の習慣化も課題となっている。
中2	「知識・技能」において、数学2pt、社会1ptと市平均を上回った。「思考・判断・表現」において、R4年度さいたま市学習状況調査より、国語＋1pt、数学＋2pt、理科＋1ptであった。数学の「データの活用」の領域において、市平均を4pt上回った。国語の「話すこと・聞くこと」の内容において、市平均を＋9pt上回った。全教科、市の平均を上回り、概ね良好な結果となった。教科会などでの情報交換を通し、課題解決に向けた取組やICTを活用した指導が浸透してきた成果であると考えられる。
中3	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は90%であった。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合も90%であった。どちらもR5年度全国学力・学習状況調査よりも高い結果であり、主体的に学習に取り組む様子がみられるようになった。

⑤ 目標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」の平均正答率は全国平均と比較して、両教科＋4ptだった。またR5年度市学習状況調査の国語・数学・理科・社会の「知識・技能」において、どの教科も市の平均をわずかながら上回ることができなかった。ICTの活用頻度は昨年度に比べ上昇したが、知識・技能の定着に結びつけることができなかった。	C
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度自校結果からの変化はなかった。また、R5年度さいたま市学習状況調査の数学の「データの活用」の領域において、市平均より＋3ptとなった。さらに、R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「話すこと・聞くこと」の内容において、市平均より＋4ptとなった。各教科において、言語活動を通した生徒同士の関わりや、データや資料などを扱う場を意識的に増やすことができた。	B
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、R5年度全国学力・学習状況調査では肯定的な回答の割合は78%であったが、さいたま市学習状況調査では89%であり、おおむね達成することができた。また、R5年度さいたま市学習状況調査の「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は82%にとどまった。	B